



きょうされん
千葉支部会報

2014年9月号

千の葉通信



発行 きょうされん千葉支部事務局 広報委員会

2014年8月29日

第37次国会請願行動

5月29日(日)、国会議員会館にて第37次の請願行動が行われました。これまでの活動で集まった3,000筆余りの署名を携え、千葉支部を代表して5名が国会へ赴きました。今回は、42の都道府県から450名の参加がありました。

権利条約に沿った福祉に変えてほしい

私が所属するトライアングル西千葉と、あやめさんとで、職員・利用者さんを含め5名で国会請願行動に参加しました。

請願署名を国会で取り上げてもらうため、千葉県選出の国会議員に紹介議員になっていただけるようお願いに回ってきました。お一人だけ議員さんに直接お会いできましたが、殆どの方が議員会館にはおらず、秘書の方をお願いをしてきました。

障害者権利条約を日本は批准したわけなので、是非とも権利条約に沿った障害者の福祉に変えてほしい、骨格提言に示された障害者福祉は原則無料に、障害者本人の65歳からの介護保険への移行はやめてほしいことなど多くの当事者と家族の願いを伝えてきました。

ただ、議員会館の受付の段階で話も聞かずにお断りと言ってきた議員もお一人だけあり、「地元千葉からこういう人を選出したのか」と、一緒に行った仲間からも非常に残念だという声も上がりました。私も全くもって同感です…。

しかし、こういう運動を継続して行うことが、福祉を少しずつ良い方向に変えていくことに繋がると思っています。

組織・運動委員会 浜畑 力也 

国会請願へ初めて参加しました。党派の方針や各議員さんの考え方により、理解してもらおうことの難しさや法律にしろまでもの大変さを改めて知りました。

日々の生活においても、解りやすい表現をするよう気をつけねば、と痛感しました。

- トライアングル西千葉
利用者
- 第37次国会請願に参加して

第38次国会請願行動 に向けて

千葉支部では、12月より第38次の国会請願署名・募金運動の取り組みを始めます。

署名8,000筆、募金15万円を目標に掲げ、前年度よりもさらに活発な働きかけを行います。会員の皆様におかれましても、より一層のご協力をお願い致します。





STOP! 精神科病棟転換型居住系施設!!

6.26緊急集会

6月26日(木)、精神科病棟を居住系施設に転換しようとする動きに反対する集会が、日比谷野外音楽堂で開かれました。

千葉からは20名程が参加。全国から総勢3200人が集い、熱気みなぎる集会となりました。

日本でも批准したばかりの「障害者権利条約」に違反することにもなるこの施策の検討を止めさせ、誰もが普通に暮らせることができるよう、参加者一同で確認し合いました。



「一生病院生活はいやです！」

トライアングル西千葉では、利用者5名と職員2名で参加しました。

「この制度はやめてください！」
「一生病院生活はいやです！」

20年から30年に及ぶ病院生活を送る当事者の方、現場の看護師さん、医師、ご家族からこのような訴えがありました。

また、社会へ自立した方からは、

「買い物ができる！」
「自由にお風呂に入れる！」
「地域の人たちと暮らせる！」

との声が上がりました。

とても暑い一日で日焼けして帰ってくると、仕事を終えた仲間に来て「ごくろうさん！」と声を掛けてもらい、ホッとしました。

朝のドラマでは毎回「ごきげんよう」と言っていますが、まだまだそんな社会ではありません。また明日からもがんばろうと思いました。

利用者の皆さん、ありがとうございました。

組織・運動委員会 福井 良子 

voice

～みんなの声をとどけます～

— 6.26集会に参加しての感想をお聞きました

- 今まできょうされんという組織を知りませんでした。もっと知りたい
- マスコミで障害者の政策をもっと知らせてください
- 仲間ともっと交流し、協力し合いたい
- 仕事と運動は一緒だよ



きょうされん千葉支部 障害者の支援・発達保障講座

「てんかんのある人の生活と支援を考える」

6月22日(日)、全国障害者問題研究会(全障研)千葉支部ときょうされん千葉支部共催の学習会が、サンロード津田沼にて開催されました。

講師に千葉県リハビリテーションセンター小児科の永沢佳澄医師を迎え、「てんかん」についての基本的な知識、発作時の対応など、多くの事柄をわかりやすくお話くださいました。

講座の内容を要約してご紹介します。

「てんかん」は脳の病気

てんかんはおよそ100人に1人程度の割合で発症するありふれた病気であり、日本全国には100万人以上の患者さんがいると言われる。発作の程度や症状は人それぞれである。

てんかんの発作とは

脳の神経細胞は放電する。脳は大脳の神経細胞が出した電気信号を検査する。脳と体は脊髄を通してつながっていて電気信号が伝わることで動かすことができる。神経細胞が異常に興奮し、過剰な放電をする箇所を「焦点」と呼ぶ。焦点の異常な興奮が周囲に伝わったり、脳全体が一斉に異常な放電を始めることがある。その結果、必要な情報が途絶えたり、不必要な命令が出たりする。このようなときに、体の一部が意図していないのに動いたり、意識が途切れたりする。これをてんかんの発作という。

てんかん発作で大切なこと

てんかん発作に気付くためには、発作を知ることと観察が大切。発作がどんなときに起こったか、持続時間はどのくらいか、顔色はどうだったか、発作の始まりはどんな様子だったか等の観察・記録をしてドクターに伝えるとよい。特に発作の始まりについての情報は、薬の方針に関わる大切な情報である。

発作を起こさないように

- 薬を飲み忘れないようにすること
- 規則正しい生活をする（過労や睡眠不足は大敵）
- 発作の誘因となるような刺激を避けること（過度のアルコール摂取、点滅する強い光、大きな音）
- できるだけ一人にならないこと
- 入浴時に音がしなくなったら様子を見に行く
- 過度に神経質にならないで接すること

発作時の対応

- 意識障害を伴う場合は、安全な場所で楽な姿勢を取らせる
- 舌を噛む可能性はあるが、タオルを詰めたり、割り箸を噛ませたりするのは危険
- 嘔吐する人がいるので、吐物が気道に詰まらないような姿勢を取らせる
- 一旦発作が止まったように見えても、意識が回復しないうちにまた発作が起こる場合は発作が続いている可能性がある

RECOMMENDED!

『知っておきたい「てんかんの発作」—アニメとイラストでわかるてんかんのすべて』

久保田有一【著】
価格 2,484円(税込)
アーク出版



きょうされん千葉支部 障害者の支援・発達保障講座

「グルースホーム・ケアホームの運営と実践について考える」

7月6日(日)、全国障害者問題研究会(全障研)千葉支部ときょうされん千葉支部共催の学習会が、千葉市教育会館にて開催されました。

講師には、きょうされん東京支部の社会福祉法人イリアンス「のぞみの家」施設長で、きょうされん全国理事も務めている磯部光孝氏を迎え、「どんなに障害が重くても地域で暮らす」をテーマに、自施設での実践を交えてお話いただきました。講座の内容を要約してご紹介します。



講演を行なう磯部光孝氏

障害者権利条約の批准

障害者権利条約を批准したことで、一つの指標が出来た。これにより、障害者の支援のあり方が国際基準で見られるようになった。特に生活に関することでは、「第十九条 自立した生活及び地域社会への包容」がある。これは障害者が健常者と同じように地域での暮らしを選ぶ権利を持っているということであり、そこを目指していかなければいけない。

一方で、「病院のベッドがグルースホームに」という精神科病棟の居住転換問題がある。これは精神障害の分野のみならず、知的障害や身体障害など全ての障害者に関わる。障害者は入所施設に行けばいいということになってしまいうきっかけにもなり得る。

「親よりも早く亡くなった娘は親孝行」

1999年11月、東久留米市第一号の生活寮を開設。2001年12月、入所者の一人が亡くなり、その親から「親よりも早く亡くなった娘は親孝行」と言われた。つい最近までそういった考え方があった。これまで国際障害者デーなど様々な動きがあって、日本でも障害者福祉が豊かになったのかと思っていたが、根幹の部分では親の大変さなどあった。親元から離れて生活する場が無ければ何も変わらない。支援を受けて自立生活を受けられる仕組みが必要。障害が重く多くの支援が必要な方でも親元から離れられる形を作っていかなければ、と考えた。

障害のある人が暮らす場だからこそ、ゆとりのある環境を

2004年4月、街の中で、通所施設と離れた場所の借地を利用してグルースホームを二棟建設した。しっかりと整えた住環境を提供することが、利用者にとってとても良いことであるし、支援する側にとっても支援がしやすくなる。後々の事を考えたときに環境には金をかけた方がいい。

家賃45,000円を軸に資金計画を立てた。法人からの持ち出しはほとんど無くし、東京都からの補助金と利用者の家賃でグルースホームを建設出来るようにした。そうすれば、土地が見つければ次から次へと建てられる。寄付金で自己資金800万円を用意した。次を見越して法人の体力を温存した。

東京都の補助金は「月額払い」。「暮らしに日払いはおかしいだろう」というのが東京都の見解。千葉県でもぜひ取り入れてもらったらどうか。

日中活動の支援と暮らしの支援

家族以外の人たちと暮らすことで、家族との暮らしも楽しく

家庭と日中活動の場を行き来していたある利用者は、母親との関係があまり良くなかったが、グループホームに入り家族以外の人たちと暮らすことで、家族との暮らしも楽しくなったという事例がある。

家族はスタッフにバトンタッチすることから見守りに

また、ある事例では家庭・日中活動・グループホームの三つの環境で暮らしていた利用者が、親が亡くなった後精神的に落ち着かなくなってしまった。いろいろな関わり合いの場を増やしておかないと、柱が折れた時どう支えるのか、考えていかな

ければいけない。家族は、スタッフにバトンタッチすることから見守りに。

自分の家に帰りたい

多様な暮らしを目指して、こだわりなどを踏まえた生きざまなど、いろいろな暮らしの在り方を通して、あらためて「自分の家に帰りたい」という声。

家族支援から社会が支えていく仕組みを作るために

グループホームはひとつの通過点

一人ひとり違う暮らしの支援。グループホームに入ってからどのような人生を送るのか。色々な在り方があっていいし、グループホームはひとつの通過点。サテライトを使うことにより、一人の暮らしを支援する。

週末に実家へ帰る仕組みから365日を支えていくために

365日利用の方が毎年増えてきている。週末に実家へ帰る仕組みから365日の対応へ。職員もいつも一緒というわけにはいかないので、移動支援を使いながら買い物に行くなどしている。暮らしを支えていくのはグループホームだけではなく、色々なサービスを使っていかないと365日の対応はなかなか難しい。

スタッフの配置

365日の対応では、スタッフの配置が問題になる。職員がなるべく夜勤にならないよう夜間は職員2名のところを1名にし、代わりにパートやアルバイトを入れている。職員はその分を土日

の過ごし方にも対応できるように。暮らしの場が変わると利用者も始めは落ち着かないが、一定程度暮らし方が見えてくれば障害が重くても生活が安定してくる。寝付くまでは職員で対応するが、夜間はアルバイトに対応してもらっている。また、必ずフリーの職員を置き、何かあればすぐ相談できる、組織的な対応ができる体制を整えた。

スタッフと離れられない利用者
発達障害のある利用者は幼い頃に親を亡くし、親を求めて職員に依存して離れられなくなってしまった。障害への理解を深めるとともに、ルールを決めていかなないと職員と依存関係が強くなり、孤立する。女性の利用者の場合、職員への依存傾向が強い。女性の支援は丁寧。職員には仕事とプライベートをしっかりと分けるようにと伝えていく。

親御さんの思いをよく知ってほしい

親御さんはどんな思いで彼・彼女達を育ててきたのかをよく知ってほしい。ただ生活を支え

ていくだけではなく、「人生を支えていく」という視点がないと、支援者として何のためにやっているのかが見えない。

成年後見制度とエンディングノート

親亡き後の対応、遺産相続や遺言書など、状況に応じて成年後見制度を活用する。事業所としては、どういう思いで支援をしてほしいか、エンディングノートを作ってもらいたいとお願いしている。

一人ひとりの暮らしを丁寧に作り上げていく

どういう暮らしがその人にとっていいかを考えた時に、ひとつの選択肢としてこのグループホームがあり、他にも良い施設があれば一緒に探していこうという考えでやっている。一人ひとりの暮らしを丁寧に作り上げていくという姿勢を最後まで持ち続けていく。



会員施設取材レポート

— 地域活動支援センターⅢ型 わーくす結

千葉支部会員の施設へ事務局員が訪問し、施設のいろんな話を伺います。
第二回目は、木更津市で活動している「わーくす結」さんへお邪魔しました。

特定非営利活動法人 やさしねっと結

〒292-0825
木更津市畑沢2-36-3
TEL: 0438-36-0292
URL: <http://www.npoyui.org/>

「働く」ことを通じて、障害者も健常者も認め合い、成長し合える地域社会を創りたいと活動。生活支援・就労支援のみならず、広報誌を発行して障害者への理解を深めるための啓発活動も行なう。



— 「やさしねっと結」理事長の末廣博美さんと理事の重田美幸さんにお話を伺いました。

「自分たちで何かやらなきゃ」

重田美幸さん（以下、重田）：私自身、知的障害とてんかんを持つ子の母親で、今から10年ほど前、子供が高等部に通っている頃、高校卒業後にどんなことができるか、自分ができることはないかと考えていた。その時ちょうど子供が通っていたハンディキャップのある人のための学習塾で、子供たちが授業を受けている間に親同士の交流や悩み相談をする場所があった。その中で相談をしたりお母さん同士のつきあいの中で、「自分たちで何かやらなきゃ」という思いになった。親だけの集団ではなかなか難しいこともあるため、子供が小さい頃からサポートしてくれていた学習塾の先生や特別支援学校の先生、友人など10人ほどが集まって、2005年にNPO法人を立ち上げた。企業の新しい社屋の一室をご好意で貸していただいて、仕事もいただいたり、畑を貸してもらったり、たくさんの人たちが力を貸してくれた。

フットワークを軽く

末廣博美さん（以下、末廣）：小さい団体なので、フットワークを軽く。おでかけにしても調理実習にしても、すべてこちらで決めるのではなく、みんなの意見を聞いて、融通を効かせながら活動している。

多彩な仕事内容

末廣：午前中は外での作業をしている。「クリーンアッスお仕事隊」という、契約者さんのお宅の草取り・室内清掃や、木更津市の市営霊園のトイレ清掃、宅配野菜の収穫など。午後の室内作業では、年間通じた作業としてゲームセンターのくじ引き作りや、やさしねっと結の理事が経営している会社からいただいている作業などがある。調理実習では、材料も自分たちで切るところから行なっている。

地域格差

重田：木更津市に対して家賃補助と重度障害者加算をしてもらうよう言ったが、木更津市ではやりませんと言われた。また、利用者の交通費の助成が全く無い。

末廣：送迎加算は少しある。送迎バスがあれば、利用者さんももう少し増えるかもしれないが。

地域の交流

末廣：木更津市に日中活動連絡会というものがあり、その中で市内の他施設と交流がある。以前は、地域作業所hanaさんの仕事を手伝ったこともある。

やさしねっと結の今後

末廣：利用者さんが増えて、職員も増えればいろんなことが出来るが、元々はみんなのスキルアップを目指してやってきたので本末転倒にならないように。みんなが明るい笑顔で毎日暮らせたらいい。

—「結ぶ・輪になる・優しい手」。わーくす結さんのキャッチフレーズです。お二人の話を振り返ってみて、とてもびったりなフレーズだと思いました。

わーくす結の皆さん、お忙しい中、どうもありがとうございました。

活動内容の紹介



言語障害児用の教材本に付録のCDを貼り付ける作業を見学。この道具は、受注元の社員が「結さんのために」と作ってくれたそう。

他の作業においても、誰でも簡単に間違いなく作業が出来るようにと、様々な工夫を盛り込んだ専用の道具がいくつも用意されている。



畑で収穫した無農薬野菜は、その日のうちに契約者さんのお宅へ配達。この日穫れた野菜はきゅうり、ピーマン、ししとう、ミニトマト、いんげん、なすと多彩。



ほんの数秒で所定の位置にCDが貼り付けられた

事務局だより

Schedule

- 9月15日(月) 運営委員会
社会福祉法人つくばね会 けやき社会センターにて開催
- 9月25日(木) 事務局会議
NPO法人トライアングル西千葉にて開催
- 10月23日(木) 事務局会議
NPO法人トライアングル西千葉にて開催
- 11月16日(日) 運営委員会

Activity

<研修委員会>

「小規模作業所・地域活動支援センター問題」をテーマとする学習会を秋以降に開催します。
詳細は改めてお知らせ致します。

<組織・運動委員会>

社会福祉法人つどの「ここすも」さんが千葉支部の会員に加わりました。

あとかぎ

この数年、スマートフォンでウェブメディアのニュースやコラムを読むことが多くなりました。その中で、面白い記事がありました。

「同じ情報を紙媒体とディスプレイでそれぞれ見た時、どちらがより理解できるか」

ある会社が調査し、発表したという記事です。

実験の結果、ディスプレイより紙媒体の方が情報を理解しやすいことが判明したそうです。そんな調査を印刷会社が実施したというのですから、さらに面白い。

紙媒体もウェブメディアもそれぞれ強みがあると思います。広報の仕事をしている身としては、双方の強みをよく理解し、両者をバランスよく取り入れられたらと思います。

(広報委員会 並木)

“障害のある仲間たちの応援団”とは、きょうされん賛助会員の皆さんです。長年応援してくださっている方、新しく応援団に加わった方、たくさんの方がいらっしゃいます。お知

“障害のある仲間たちの応援団”になろう

り合いの方や地域の皆さんにも賛助会員に入会していただき、みんなで障害のある仲間たちを応援していきましょう。
詳しくは千葉支部事務局へお問い合わせください。

“言の葉”募集

きょうされん千葉支部会報「千の葉通信」をお読みいただき、ありがとうございます。
「千の葉通信」を読んで、どんなことを思いましたか？皆さんが思ったこと、考えたことをお聞かせください。皆さんの“言の葉”を、これからの支部活動、会報作りに活かしたいと思います。

メールでお寄せください
E-Mail: koto-no-ha@kyousaren-chiba.com

お問い合わせ先

お気軽にお問い合わせください。

きょうされん千葉支部
〒263-0043

千葉市稲毛区小仲台2-6-1 京成稲毛ビル205号 トライアングル西千葉内

TEL: 043-206-7101 FAX: 043-207-7153

E-Mail: contact@kyousaren-chiba.com

Web: www.kyousaren-chiba.com